

した。利家は乃ち長頼に貸賜して金澤に歸つた。

アサフ 麻生 ヲツ 鹿島郡南三郷に屬する部族。

アザフ 萌生 ヲツ 能美郡山上郷に屬する部族。

アザフジヨウ 萌生城 能美郡萌生に在つた。越登賀三州志故墟考に、今城山と呼び、この村領の東に在る。遺跡些か存するが、堡主の傳はないと見える。

アサフジロザエモン 麻生次郎左衛門 元和三年前田利常に仕へ、四百石を領した。子孫相繼いで藩に仕へた。

アサフシンシロウ 麻生新四郎 養父喜平次永貞の遺知百石を襲ぎ、小松御馬廻に班したが、天明五年五月二十日不行狀に付知行を召放ち、五ヶ山流刑を命ぜられ、九月廿九日出發した。時に三十二歳であつた。

アサフダ 淺生田 ヲツ 鳳至郡櫛比庄に屬する部族。

アサフダジヨウ 淺生田城 鳳至郡淺生田に在つた。越登賀三州志に、舊記に安代原城と見えるも是であらう。安代原と淺生田とは隣國であると記する。

アサマル アサ丸 加賀の刀工。賀州藤原アサ丸作など、切る。元和頃の人。

アサミダイソ 朝見大素 金澤の俳人。天保九年生。幼名越前屋午三郎、後朝見次六と改めた。明治の初藩札引換所に勤務し、次いで足袋商を營んだ。槐庵五代大常はその祖父であつた爲、大素は明治十五年六月槐庵九代を嗣いだ。廿七年五月二日六十歳で歿。

アサミダニ 蕪谷 河北郡笠野郷に屬する部族。

部族。三州紀聞に、「蕪谷村持山の内に坊山と申所は、此山に佐々木四郎寺を建立、圓光坊と申由。此寺退轉以後、其寺跡に堀才喜右衛門と申者居申由申候候。」とある。

アサキ 淺井 鹿島郡淺井庄に屬する部族。淺井庄の本庄である。

アサキイチモウ 淺井一壺 大聖寺の人。竹内吟秋の弟で、通稱を幸八といふた。嘉永二年の頃から夙に九谷焼に着楯して名手と稱せられ、明治二年前田利常から相餅亭一壺の號を受けた。大正五年十二月八十一歳を以て歿。

アサキカツマサ 淺井一政 初名正祥。源右衛門と稱し、もと近江の人。備前守長政の族である。慶長中氏を今木と更めて豊臣秀頼に仕へ、大坂前後には使番となつて城中を守り、後役に命を奉じて京極高次の營に使したが、その還るや秀頼既に自殺し城陥りたるを以て京師に匿れた。元和四年一政前田利常の辟に應じ、舊姓に復して來り仕へ、千石を賜はり、馬廻組に屬し、次いで世子の側用人に進み、光高襲封の次年五百石を加へ、正保二年光高の俄かに江戸に卒した時、柩に従つて金澤に歸り、四月廿五日殉死した。墓は天徳院内光高の墓域に存し、その遺稿に淺井一政自記がある。

アサキキヨウジュン 淺井慶遠 鳳至郡淺井田眞宗東派照光寺十五代の僧。梵賢と稱し、石城と號した。開悟院靈柩の門に學び、寮司に進み、明治三十年十月二十日八十六歳にて歿した。法名照光院釋慶遠。

アサキコウゴロウ 淺井弘五郎 諱は好近。實は小國左兵衛の子で、淺井善兵衛好俊の義

子となつたものである。好俊は本多氏に仕へて祿六十石を食み、弘五郎は中小將として別に粟米十俵を受けた。人と爲り蘇若にして威容あり、劍法に通じ砲術を善くした。明治四年十一月廿三日同志と共に故主本多政均の仇菅野輔吉を討ち、五年十一月四日自殺を命ぜられた。享年廿五。

アサキシヨウ 淺井庄 鹿島郡に屬し、藩政時代では、東馬場・西馬場・最勝講・徳前・淺井・芹川・井田・蟻ヶ原・二宮・武部の十村を合んで居た。

アサキナハテ 淺井噤 能美郡大領中から大領を経て南淺井に至る間をいふ。今大領の松林中に、慶長五年に戦歿した長連龍の臣堀内一秀軒景廣・長中務連朗・小林平左衛門秀備・鈴木權兵衛重國・八田三助吉信・岩田新助吉忠・六島少三郎忠雄の七碑を存する。柳彌平次も同時の戦死者であるが、その碑はない。

アサキナハテカツセンオボエガキ 淺井噤合戦變書 一冊。寛文元年九月十二日前田綱紀淺井噤の古戰場を巡見して、邑民にその事實を聞取した變書である。

アサキナハテキ 淺井噤記 一冊。牧忠輔著。淺井噤役の次第に就き、諸記録を参照して異同を正し、評論を加へたものである。

アサキナハテノタカヒ 淺井噤の戦 ↓ ケイチヨウノエキ 慶長の役。

アサキハチザエモン 淺井八左衛門 馬場忠兵衛の子。氏を改めて前田利常に仕へ、八百石を領し、御使番に任じ、寛永六年歿。子孫相繼いで藩に仕へた。

アサキヒサアツ 淺井壽篤 當時島根縣治下であつた鳥取の人。安政三年生。明治九年

出京して警視廳巡査となり、十年西南の役に従軍し、八月凱旋したが、その慰勞休暇中青樓に遊んだ爲に、十一年二月職を免ぜられた。壽篤快々として樂します、一日石川縣人元巡查橋爪武をその寓居に訪うたが、武は密かに之に告ぐるに、友人長連龍等が將に那家の爲に參議大久保利通を弑するの計畫があつて、余の任は金澤に歸り、連發失敗の曉に於いて後舉を謀らんとするものなるが故に、共に北下するの意なきかを問うた。壽篤乃ち之を諍し、四月六日金澤に暫うたが、この時島田一良が既に東上した後に屬し、警察の警戒極めて嚴であつたから、再び四月二十日を以て着京し、一良等に請うて五月十四日の紀尾井町襲撃に加り、後七月二十七日斬刑に處せられた。時に年二十三。

アサキベソカイ 淺井辨海 能美郡北淺井眞宗東派妙永寺の僧。高倉學寮に入つて雲華院大倉に學び、寮司に任ぜられ、戲術を描き狂歌を能くした。明治廿一年八月十五日寂、六十五歳。法號離院院。

アサキマサスケ 淺井政右 通稱作左衛門。源右衛門、素菴と號した。源右衛門一政の嫡男。寛永二十年前田光高に仕へて三百石を賜はり、大小將組に列した。正保二年父殉死の後遺知の中千二百石を襲ぎ、萬治三年大小將頭となり、延寶五年馬廻組頭に進み、天和二年罷めた。稟性洒落、茗事を嗜み、和歌を善くし、連歌に長じ、兼ねて能書が稱があつた。

元祿四年八月四日歿、享年六十八。著す所わざとの記一卷があり、月村石の記も亦政右の作つた所である。

アサヲ 淺尾 前田重熙の時江戸藩邸に居

た。